

鎌倉版「スマートシティ」市民対話

令和3年（2021年）8月22日（日）14:00～
鎌倉市政策創造課作成

INDEX

プレゼンテーションの流れ



- 01 スマートシティってなに？
- 02 なぜ今、スマートシティ？
- 03 「共に考え、共に創ろう」
- 04 スケジュール

スマートシティってなに？

スマートシティの定義

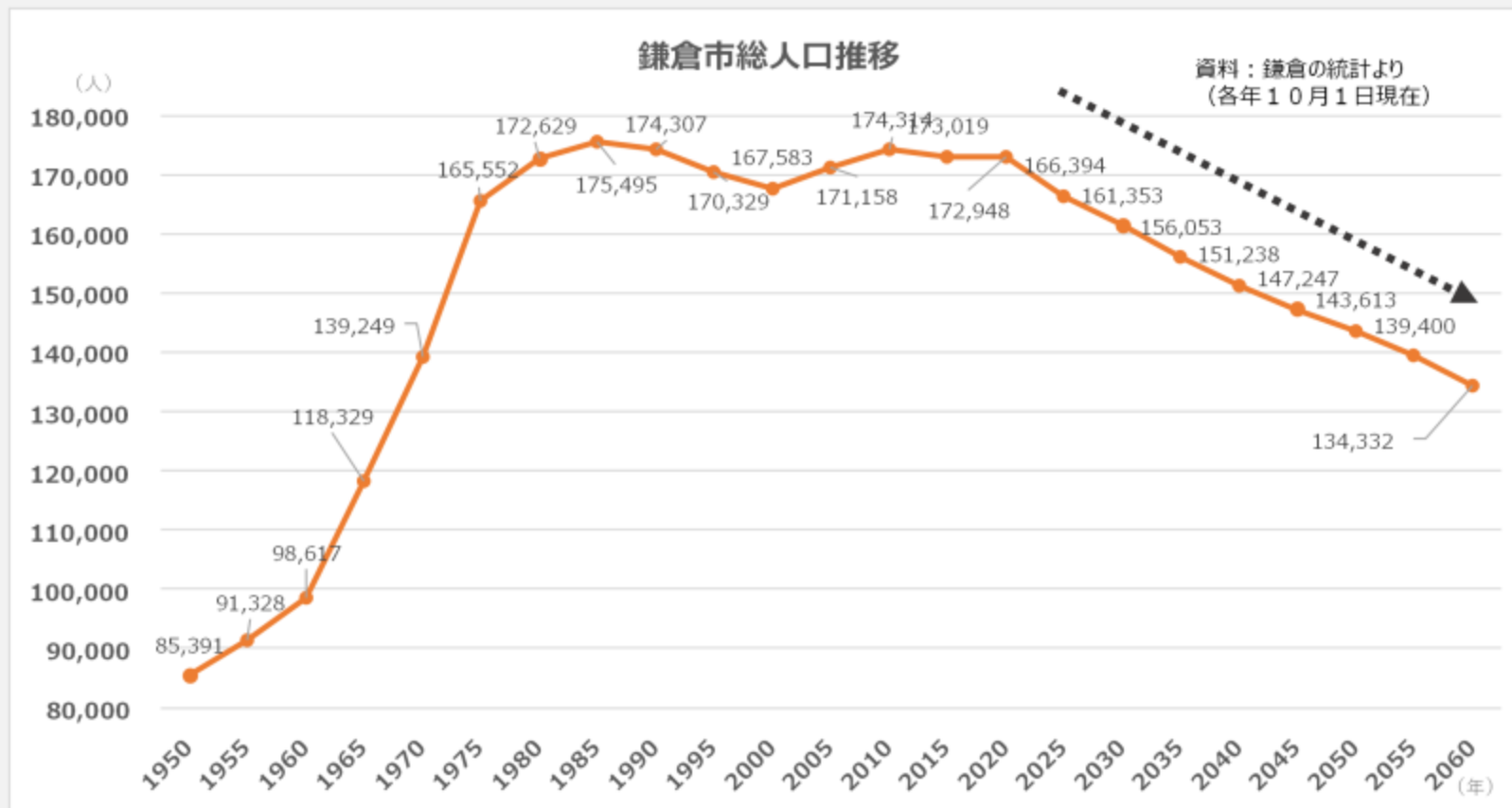
出典：スマートシティガイドブック



- [手段] 市民起点で必要なテクノロジー（デジタル技術）とデータを適切に活用し、
- [動作] 市民にとっての今の困り事を解決していきつつ、地域全体・未来の大きな課題の解決にもつなげる
- [状態] Society 5.0 for SDGsの先行的な実現（社会実装）の場としていく

なぜ今、スマートシティ？

鎌倉市の人口の推移と予測



高度経済成長期の人口増加を前提にシステムが成り立たない社会へ

1 40年前(1980年)



30代以上は、ほぼピラミッド型
多くの現役世代が少ない高齢者を
支えている。

2 5年前(2015年)



団塊の世代と団塊Jr世代の高齢化が
進む一方少子化が顕著になる。

3 20年後(2040年・推計)



少ない現役世代が多くの高齢者を支え
る逆ピラミッド型に近い形に。
社会保障費の増大、税収減、担い手
不足が深刻化。

鎌倉市が直面する課題

1 災害の激甚化



一昨年の台風15号と19号では、大規模な停電や土砂崩れが市内各所で発生し、自衛隊が初めて鎌倉に入りました。

2 両立困難な課題



オーバーツーリズムと呼ばれる観光客の集中や慢性的な交通渋滞。新型コロナウイルスにより公共交通機関が敬遠されるなどの社会情勢の変化は、ますますこれらの課題は複雑化させていきます。

3 急激な社会情勢の変化



テクノロジーの急速な進展、情報格差や差別の拡大と顕在化

鎌倉市が直面する課題



渋滞対策



津波避難



バイパスの整備



津波避難タワー

両立が困難…



自然景観の保全

鎌倉市が目指す社会

「すべて国民は、個人として尊重される。」から
はじまる日本国憲法第13条は、
個人としての権利及び幸福追求権について規定しています。

私たちの社会には、性別、性的傾向や性自認、障害及び病気の発症、家族のかたち、職業、経済状況、国籍、文化的背景などは、それぞれ異なります。

多様な人々が尊重され、どのような立場になろうとも、豊かに暮らしている社会が、私たちの目指す共生社会です。

近くにいる人の生きかたに思いをめぐらせてみましょう。自分らしく生活したくとも、多くの人にとっての「ふつう」や「当たり前」を経験した社会に、生きかたや思いの豊かさを伝える人がいます。

「ふつう」や「当たり前」の意味は、人によって異なります。

互いの違いを思いやり、配慮することで、互いに寄り添い、共に生きられます。

目に見える事柄はより、目に見えない、あるいは言葉にできない生きかたに気づくことが、共生社会への一歩となります。

私たちは、多様性を認め、互いを思い、自分らしく安心して暮らせる社会を、鎌倉市において実現するために、この条例を制定します。

鎌倉市共生社会の実現を目指す条例(草案)

自分らしく、生きる。共に、生きる。



現在、市が抱えている喫緊の課題とともに、これから直面することになる、様々な課題に対応できる仕組み・体制をつくり、「誰もが生涯にわたって自分らしく安心して暮らせる共生社会」に取り組んでいきたいと考えています。

バリアフリービーチ

共に考え、共に創ろう

市民一人ひとり、地域、社会全体で幸せを実感できるまち
「世界一幸福度（well-being）の高いまちKAMAKURA」

- 1 市民にとっての日常生活の困りごとの解消
- 2 地域課題の解決（防災、交通・観光、健康・医療など）

鎌倉市が推進するスマートシティの取組み（産官学民連携）

POINT

01

市民対話・参画 を推進

対話等を通じて市民の困り事
やニーズを把握。市民の主体
的な取り組みを促進

POINT

02

データの流通・連携・ 拡張の推進

官民が持つ情報をオープ
ンデータ化し、行政、企
業、市民等の活用を促進

POINT

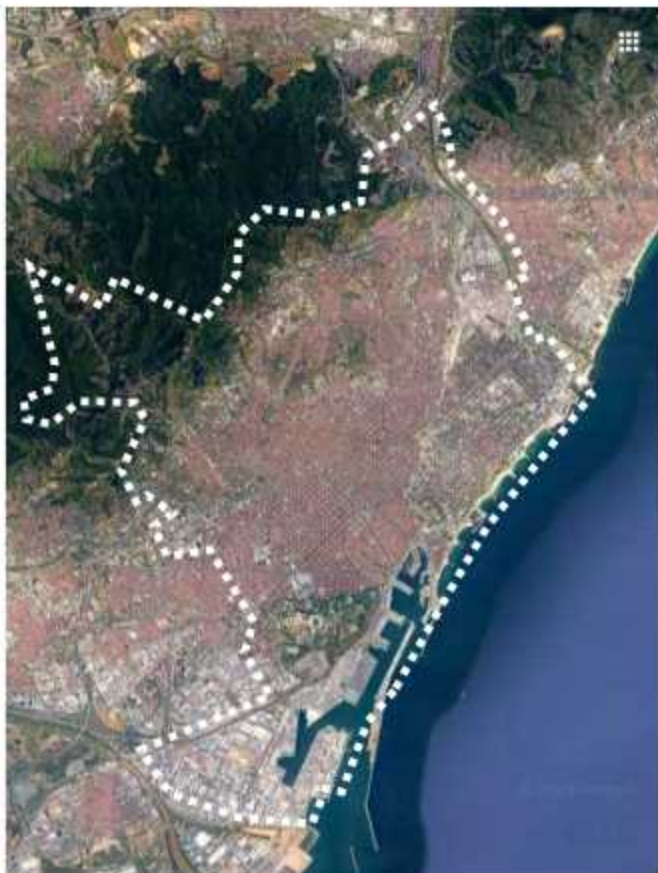
03

先端的サービスの 実証・実装を推進

対話等を通じて市民の
ニーズや地域の課題解決
につながるサービスを実
証・実装

- 01 市民起点のまちづくりのための仕組みを構築
- 02 全体最適を目指すサービスを生み出すデータ連携基盤を構築
- 03 新サービスを創出するオープンイノベーションの組織を構築

市民起点のスマートシティ



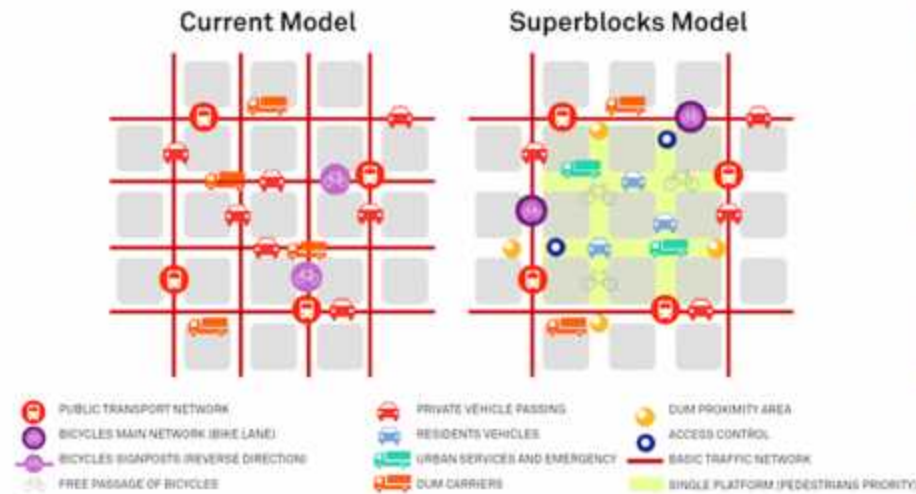
スペイン・バルセロナ

地中海に面し、北東部に山を抱えるバルセロナ。スペインを代表する人気観光地であり、歴史と文化をもつ。かつて、近代化を進めるためにアメリカの後を追いつき、車社会に舵をきったが、渋滞の発生、排気ガスによる大気汚染など環境問題に悩まされた。近年ではオーバーツーリズムも課題となっている。

出典：グーグルマップ

スーパーブロック

Ajuntament de Barcelona
Urban Mobility Plan of Barcelona 2013-2018
SUPERBLOCKS MODEL

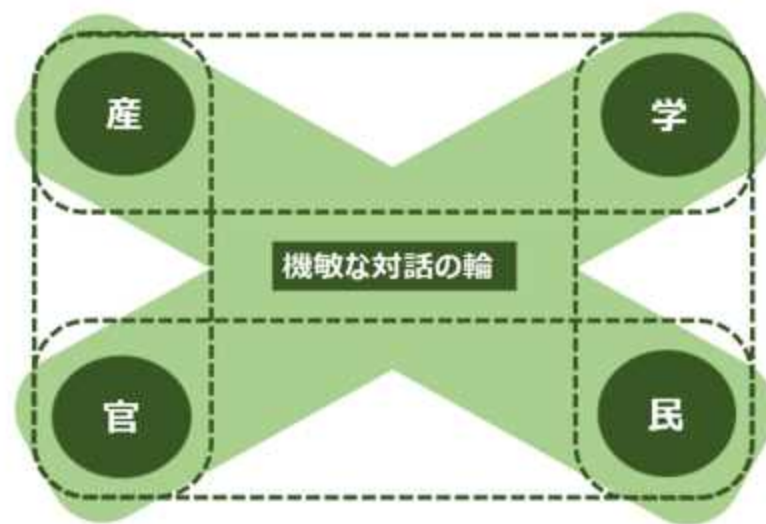


車中心から人間中心へ

バルセロナは、中世から引き継ぐ格子状の街並みを維持している。以前はこの縦・横に、車が縦横無尽に走ることができ、「人が車に遠慮する」状態だった。この街並みは変えずに、車が迂回するようにスーパーブロックを形成。この仕組みはデータやテクノロジーによって支えられている。この取組を実現するにあたっては、市民を中心とした議論が行われた。

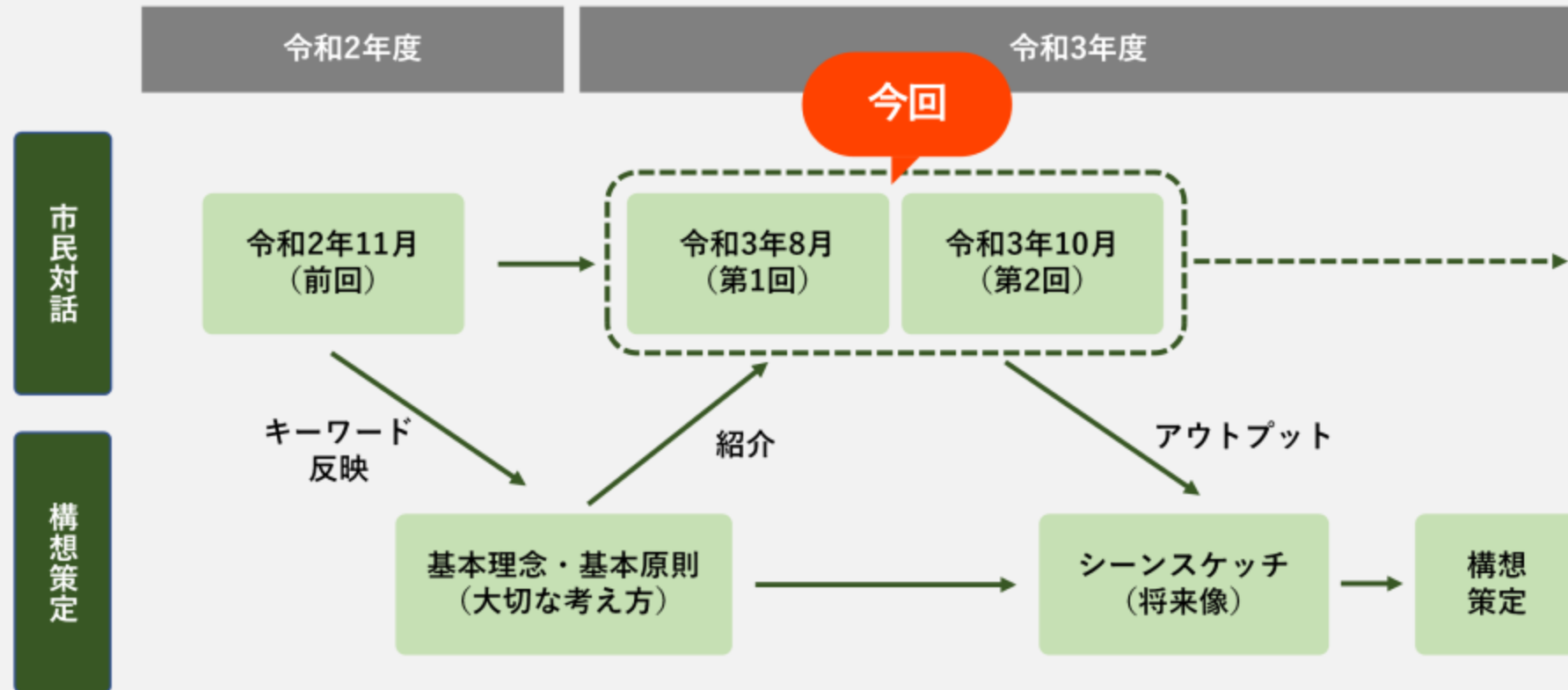
出典：出典「スーパーブロック」計画 (c) Agència d'Ecologia Urbana de Barcelona

対話重視型のスマートシティへ



スケジュール

市民対話からスマートシティ構想策定までのプロセス



前回のスマートシティ市民対話

問1

スマートと聞いて 連想した言葉

- 便利 (10)
- 賢い (9)
- オシャレ・洗練 (8)
- DX (デジタルトランスフォーメーション) (8)

問2

解決したい日常の 困りごと

- 近所や世代間のつながり・助け合いが少ない (15)
- 高齢者等のITリテラシー格差が拡大する (13)
- 交通渋滞が多い (10)
- 移動手段が減って買い物等に困る (9)
- メジャーでない地元の情報を知りたい・伝えたい (7)

問3

スマートシティで 避けたい状態

- 人と会わなくても何でもオンラインでできる (21)
- 考えなくても良くなる (10)
- 人が選別・管理・監視される (10)
- 手続きがかえって複雑になる (8)
- ITありきで使えない高齢者等が暮らせない (7)

問4

スマートシティで 実現したい暮らし

- 近所や世代間のつながりを促進する (22)
- 多様な生き方を尊重する (8)
- 地元で働ける場をつくる (8)
- 地域課題を見える化してみんなで解決する (7)

スマートシティ構想の基本理念・基本原則

誰もが生涯にわたって、自分らしく安心して暮らすことのできる共生社会の実現を目指し、次の理念と原則に従い、テクノロジーやデータを活用したスマートシティの取組を推進します

基本理念

1

“市民起点”

2

”共生の精神”

3

“鎌倉らしさの継承”

基本原則

1

公平性・包摂性
社会的影響

2

プライバシー
保護・透明性

3

相互運用性
・オープン性

4

安全・安心
・強靭性

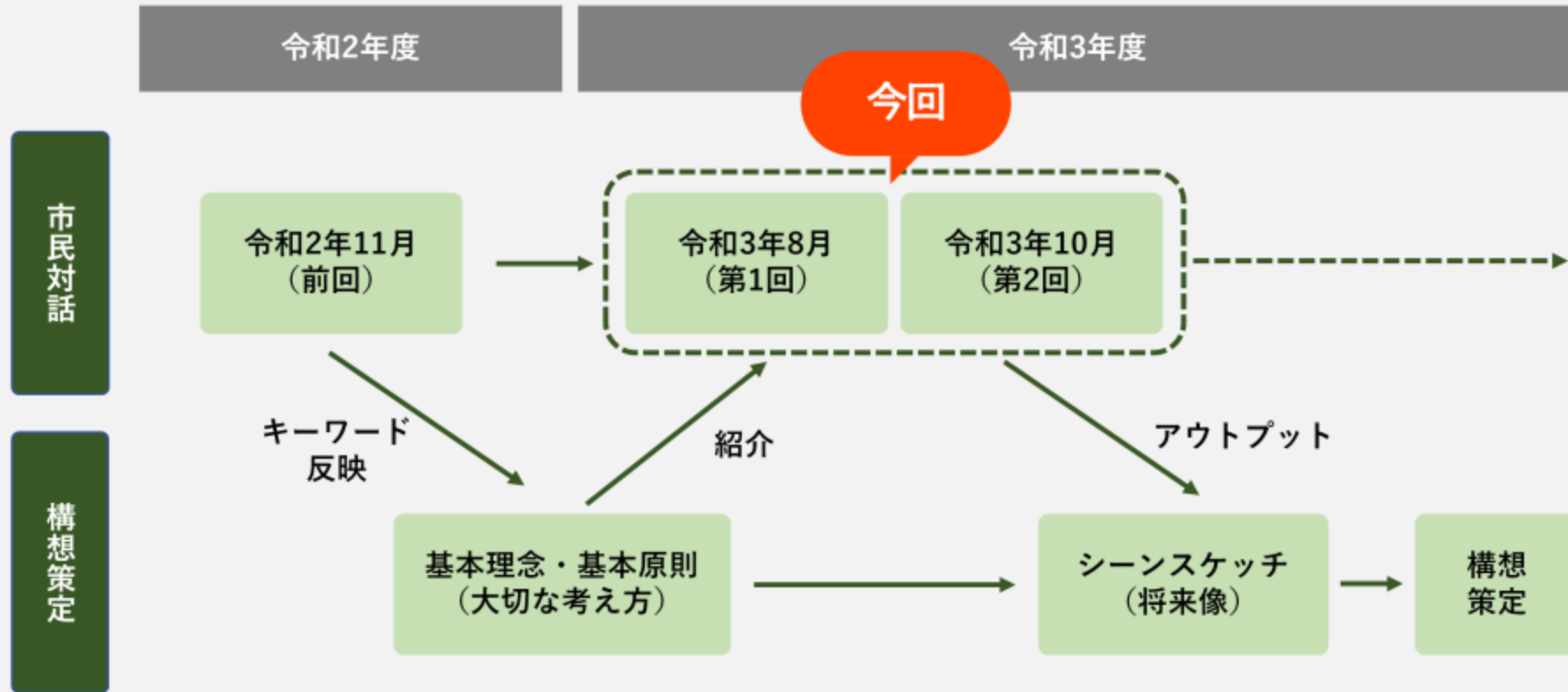
5

持続可能性

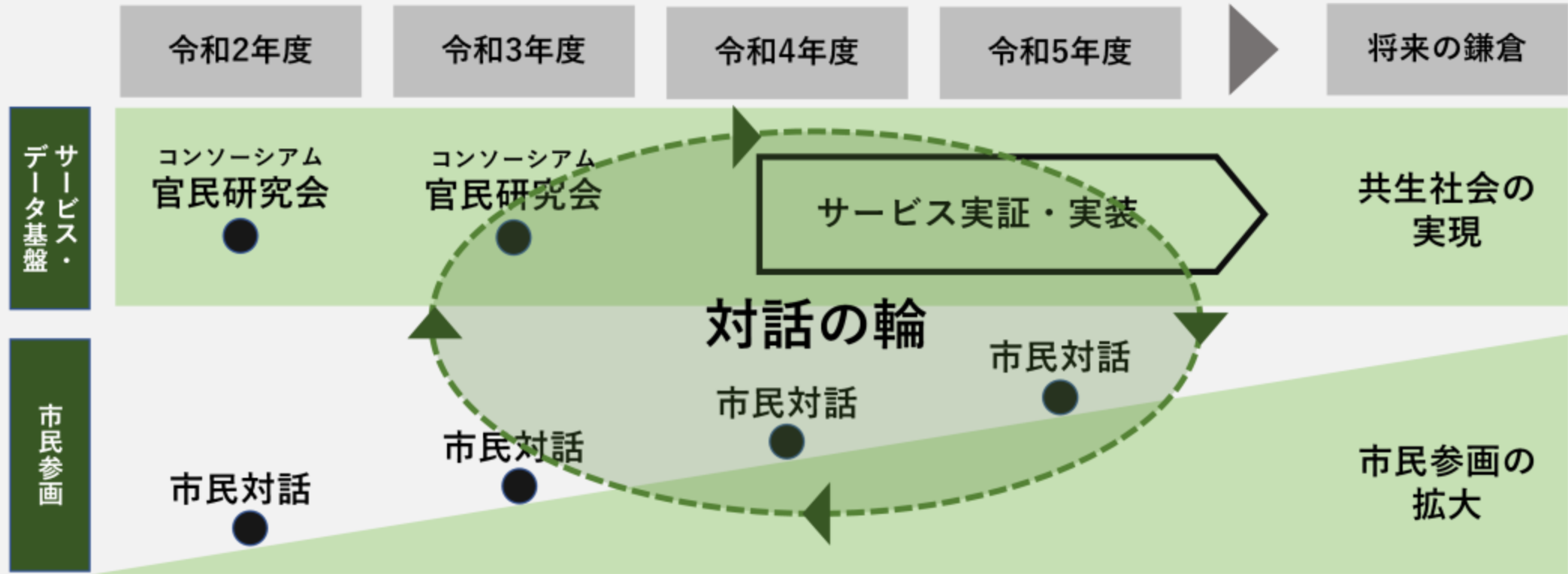
6

対話・共創
・主体性

市民対話からスマートシティ構想策定までのプロセス



市民参画と対話によるサービス実装とデータの利活用へ



Let's Make Our Future!

最後に…

